

国慶節消費節約志向に

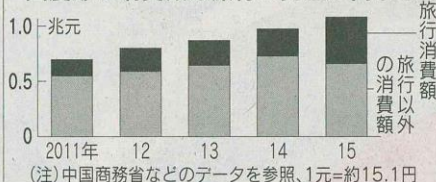
きょうから 中国景気減速で

日本人気に影



29日、国慶節を前に海外へ向かう旅行者でにぎわう大連の空港

国慶節の消費額は旅行の比重が高まる



【大連＝原島大介】中国で建国記念日「国慶節」を祝う7連休が10月1日から始まった。期間中に中国人が費やす消費額は1兆元（約15兆円）に上り、このうち半額を占める旅行では延べ6億人が国内外を移動する見通しだ。ただ足元の景気おぼつかないなか、国内外で節約志向が顕在化。為替変動などで日本人気にも陰りが出ている。

中国の大型連休は国慶節と、2月の旧正月「春節」のみ。家族が実家で年を越すことが多い春節に対し、国慶節は日本のゴールデンウィークの感覚に近く、家族旅行などにお金を費やす傾向が強い。期間中の国内消費額は春節（15年は約7500億元）より多く、年間最大のかき入れ時だ。所得水準の向上に伴う中間層の拡大で、期間中の国内消費額は増加の一途をたどり、今年も昨年の1兆820億元を上回り過去最高に達する見通し。中でも旅行分野は、旅行者が前年同期比12%増の5億8900万人、

消費額は同13・5%増の4781億元を見込む。ただ1人当たりに換算すると、約811元と昨年（約800元）とほぼ同水準。経済成長に減速感が漂うなか「旅行は行きたいが、無駄なお金は使いたくない」との消費者心理が透ける。節約志向は海外旅行で鮮明だ。中国旅行サイト「トリップ・上海」によると、期間中480万人が海外を訪れるが、渡航先は欧米よりも近場で割安なアジアが多く、なかでも価格の安いタイに人気が集まっているという。

こうした流れを受け、昨年は爆買い現象が起きた日本人の気も陰りがみえる。渡航先の人気ランキングをみると、昨年は首位だった日本が今年は韓国、タイに次ぐ3位に転落。日本円に対し人民元安となり、ツアー価格に割高感が出たためという。

実際、広東省の大手国有旅行会社「中国国旅（広東）国際旅行社」では、同省出発の4泊5日の人気ツアーで比べた場合、1人当たりの平均価格は韓国が3999元、タイは4999元、日本は5999元と最も高く、同社の担当者は「人気の順だ。位は安さに連動した」と話す。訪日観光ビザの約4割を発給する上海の日本総領事館では、国慶節用のビザ申請が集中する8月の発給件数が前年同月比で17%増加。全体の訪日中国人は引き続き増えると思われるが、日本企業が集積する遼寧省大連では同月の発給数がマイナスになるなどかつての勢いは弱まりつつある。為替変動に加え、中国人の主な訪日目的が買い物から温泉地訪問などにシフトしたことで、日本での消費額も伸び悩むことは避けられない見通しだ。